

令和4年度 学校自己評価書(様式)

<p>鈴鹿市立庄内小学校</p>		<p>NO. 1</p>	
<p>評価項目</p>	<p>本年度の活動(具体的な手立て)と指標</p>	<p>成果と課題</p>	<p>学校関係者評価と今後の改善点</p>
<p>学力向上</p>	<p>確かな学力と基本的な生活習慣を身につけた子どもの育成</p> <p>○全国学力・学習状況調査、みえスタの結果分析と授業改善への活用</p> <p>①児童の強みや弱みを全教職員で共有し日頃の授業に生かす。</p> <p>→ 「指導と評価の一体化」の学習会実施と年11回の全体研修会の開催</p> <p>→ TTによる算数科授業(週8時間)</p> <p>→ 全教員が公開授業を行い、学校全体で授業改善に取り組む。</p> <p>②月曜5限の「いきいきタイム」で過去問題や学VIVaセット活用した弱み克服の学習を行う。(月2回)。</p> <p><指標></p> <p>【保護者アンケート】「お子さんは学校の授業が分かっていますか」90%達成</p> <p>【研修・学習アンケート】「勉強が分かりますか」90%達成</p> <p>○家庭学習習慣と基本的な生活習慣の定着</p> <p>→ 学習の手引きの配布、PTA総会や学校運営協議会、学童等への啓蒙</p> <p>① 15分×学年の家庭学習の定着と二極化の是正</p> <p>鈴峰中学校区で連携して「家庭学習強化週間」を年3回実施。</p> <p>【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート】 80%達成</p> <p>【保護者アンケート】74→80%達成</p> <p>② 基本的な生活習慣の定着</p> <p>【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート】起床時刻79→85%達成</p> <p>【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート】就寝時刻71→85%達成</p> <p>③ 読書習慣の推進と図書館の整備(本棚の見える化)</p> <p>【保護者アンケート】「お子さんは家で読書をしている」64→80%達成</p> <p>一人年間貸し出し冊数 ・ ・ 平均60冊以上</p>	<p>確かな学力と基本的な生活習慣を身につけた子どもの育成</p> <p>○全国学力・学習状況調査、みえスタの結果分析と授業改善への活用</p> <p>①【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みえスタ、全国学調の分析を行い、「書く活動」を取り入れた研究授業を全職員が取り組んだ。 ・ また、正面玄関に子どもの書いた作品を掲示できるようにして意識づけを行ったところ、児童アンケートの「日記を週1回は書いている」の割合が1学期32.1%から2学期65.8%になった。 ・ 5・6年生の算数の時間に習熟度別授業を実施したところ、休み時間に「分からない」ところを聞きにくる児童が増えた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みえスタや全国学調の問題を全職員で解いたり、児童の回答を分析したりする時間が十分に確保できなかった。学習指導案に評価の項目を入れることはできたが、日常的な評価と指導の一体化の研修は続けていく必要がある。 ・ 全国学調 国語 平均正答数 全国より0.3P、三重県より0.5P高い 話す・聞く・読むが弱い 算数 平均正答数 全国より0.1P低い、三重県と同じ データ活用が弱い <p>②【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月曜5限の「いきいきタイム」では、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、学習ボランティアによる算数のプリント学習を行った。また月2回は、国語と算数で、過去問題や学VIVaセットを活用した弱み克服の学習を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いきいきタイム」の有効性を測る事が出来ていない。過去問題や学VIVaセット活用の難しさがあり、学年による取り組みの差が見られる。 <p><指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【保護者アンケート】「お子さんは学校の授業が分かっていますか」1学期74.3%→2学期89.3% ・ 【研修・学習アンケート】「勉強が分かりますか」 90% <p>○家庭学習習慣と基本的な生活習慣の定着</p> <p>①【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の手引きを配布し、PTA総会や学校運営協議会の場で現状を伝えた。 ・ PTAの家庭教育学級(11月11日)で、スマホなどの使い方の学習会を実施した。 ・ 鈴峰中学校区で「家庭学習強化週間」を年3回取り組み、意識づけを図った。。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 15分×学年の家庭学習の定着と二極化の是正はできなかった。 ・ 【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート 1学期】 (80%未達成) ・ 1年○24.1分、2年○38.5分、3年▲35.1分、▲4年51.5分、5年○82.9分、6年▲49.9分 ・ 【保護者アンケート】1学期59.0%→2学期61.3%達成 (80%未達成) ・ chromebookによる毎日の記録等、学校全体として具体的な取組ができなかった。 <p>②【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート】起床時刻79→ ○90. 1%達成 ・ 【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート】起床時刻71→ ○86. 3%達成 <p>③【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読書習慣の推進のため、「頭と心の貯金通帳」の特別版を発行して、データをまとめ、学校だよりにて現状について保護者に呼びかけた。図書館担当、図書館巡回指導員、図書館ボランティアの協力により、本棚の見える化など、過ごしやすく借りやすい図書館に整備することができた(市の「図書館だより」にて紹介)。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートを実施したり、図書館祭等に取り組んでいるが、家庭での読書時間や貸し出し数は減少傾向である。図書の時間の確保などを続けていく。 ・ 【保護者アンケート】「お子さんは家で読書をしている」1学期▲34.6%、2学期▲34.3% ・ 一人年間貸し出し冊数 ・ ・ 令和3年度 4月343冊、5月602冊、6月901冊、7月523冊、計2369冊 一人平均28.5冊 ・ 令和4年度 4月325冊、5月497冊、6月678冊、7月311冊、計1811冊 一人平均 	<p>【学校関係者評価】</p> <p>○全国学力・学習状況調査、みえスタの結果分析と授業改善への活用</p> <p>○前年度の課題に応じてそれぞれ改善策を考え取り組んでいる。</p> <p>○T・Tや習熟度別授業によって、児童の意欲が増しているようでとても良いと感じた。</p> <p>○習熟度別授業の取組はとても良いと思う。今後も児童に寄り添った授業を取り入れ、学力向上につなげてもらえればと思う。</p> <p>○分からない所や疑問があった場合、気兼ねなく聞きに行ける体制づくりを引き続きお願いします。</p> <p>○「書く活動」に取り組んで、日記を書く児童が増えたという結果から日々日記は書きやすいと思うので、続けて行くとよいと思う。</p> <p>○「書く活動」を取り入れた事は引き続き続けていってもらいたい。作品を掲示することで他の児童の作品を知ることでもできるので良いと思う。</p> <p>○「書く活動」を取り入れたことはとても素晴らしいと思います。書かずに済んでいく時代ですが、基本は書くことだと思います。</p> <p>▲「話す・聞く力が弱い」に関しては、子ども同士の話し合う機会を多く持ち、自分の思いを発言する力や人の話を聞く力をつけていくと良いと思う。</p> <p>▲あまり話をしなくても済むなどの単級学校の特長が影響していることも考えられるが、児童によっては「話し方が分からない」とあると思われるので、話し方などの技術指導を日頃から丁寧に指導して頂きたい。</p> <p>▲自分の思いを書けるようになるためには、書くことは大切である。その時に、宿題で日記を書かせるだけでなく、書くことが苦手な児童もいるのでテーマ設定やポイントなどの指導をお願いしたい。日記以外にも、お世話になったボランティアの人数にお手紙を書くなど、相手を意識した目的のある文章を書く機会を設定していくとよい。</p> <p>○家庭学習習慣と基本的な生活習慣の定着</p> <p>○学習時間については、自己申告のため、そのままの数字を当てにする訳ではないですが、昨年の1年と今年の2年を比較すると、18.3→38.5など、6年以外、特に3・4年は昨年の自分より勉強されているようです。また昨年の6年が41.5分なので特に今年の6年が怠っているということもないようです。塾に言っている時間を含めているかいないかで高学年の学習時間は大きく変わるように思われます。また起床・就寝時刻の定着に取り組まれているのもとても良いことだと思います。</p> <p>▲学習時間の目標を達成できていない子の原因を究明し、その原因にあった取組をしてみてもどうか。</p> <p>▲家庭学習習慣に関しては、少しずつでも定着を目指して様々な取り組み方法を試してもらっているが、なかなか難しいのが現状である。鈴峰中学校区拡大学校運営協議会で、他校の取組で紹介された「自主学習ノート」をもっと取り入れてもいいのかなと思った。</p> <p>▲スマホなどの使い方の学習は、単発的に行うだけでなく、各学年にあった使い方などを繰り返し行っていった方がよいのではないかと。</p> <p>○図書館の環境がよくなった。</p> <p>▲図書館の環境はよくなったと聞いている一方で、本の配架を変更したので、好きだった本の場所が分りにくくなった一面もあるようである。図書の時間を有効に活用して対応したり、本が好きでない子に読みやすい本を紹介する等の指導に期待したい。</p> <p>▲学年別でお薦めコーナーを作ったり、人気ランキングのような、児童が興味を持つ工夫をしてみてもどうか。</p> <p>▲拡大学校運営協議会で話題となった「自主学習ノート」もただ「宿題でできよう」というのではなく、先生の指導やテーマ設定、手立てが大切で、どれだけ動機づけをするかが大切である。先生による差がないように、校内で情報共有を。</p> <p>【今後の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の強み、弱みについて、全職員が共通理解して毎日の授業に臨めるように、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果分析の時間を十分に確保して続ける。また、書く時のテーマやポイント、話し方の指導など、児童の困り感を基に「書く力」や「伝え合う力」を育成するための手立てや指導方法について、国語科の授業研究を通して引き続き検証していく。また、「書く活動」を引き続き積極的に取り入れ、児童の作品を紹介し合うことで、書きぶりの良さを広めていく。 ・家庭学習時間の二極化について、一人ひとりへの指導やICT端末の効果的な活用による対策を考えていく。またPTAによる学習会などの機会を積極的に活用し啓蒙していく。 ・月曜5限のいきいきタイムの基礎基本定着のための学習は継続し、ボランティアによる○付けも引き続きお願いしていく。 ・家庭での読書時間の必要性について、学校だよりや学級通信などで積極的に知らせると共に、親子読書などの取組を継続していく。
	<p>ICTの活用</p> <p>教職員の授業におけるICT活用能力の向上</p> <p>① ICTサポーター来校日の研修会や校内研修、授業活用実践の充実</p> <p>→ R3年度臨時休業中のオンライン授業の「成果と課題」の確認と引継ぎ</p> <p>→ ミライシード、Classroom、Meet、プログラミング、Jamboard等の研修会を行い、授業者の操作能力向上を図る。</p> <p>→ 「わかりやすい授業」のためのICT機器の効果的な取り入れ方について情報交換を行う。</p> <p>→ 学年に関わらず、同じような使用方法ができるようになる。</p> <p>例 ミライシードのドリルパークで宿題ドリルを出す。</p> <p>例 クラスルームで課題を出す。</p> <p>例 新型コロナウイルス感染症に関わる出席停止児童に、主に算数の授業中心にライブ配信できる。</p> <p><指標></p> <p>【教職員アンケート】「端末を使った宿題を出している」100%達成</p> <p>児童の一人一台端末の活用能力と情報活用能力の向上</p> <p>① 「児童生徒の情報活用能力到達目標」を基にした全校取組の実施</p> <p>→ 「情報活用能力」の育成の授業に取り組む。</p> <p>→ 火曜日の「朝の学習時間」に全校でタイピングに取り組む。</p> <p>→ 学年段階に応じて、ドキュメントなどで日記や社会見学の感想文などのまとめを書くことに端末を利用する。</p> <p>→ ミライシード、Classroom、Meet、プログラミング、Jamboard等を授業の中で活用する。</p> <p><指標></p> <p>【児童アンケート】「クロームブックの授業は楽しい。」 85%達成</p> <p>【保護者アンケート】「クロームブック使用の授業に楽しく取り組んでる」90%達成</p>	<p>教職員の授業におけるICT活用能力の向上</p> <p>①【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R3年度臨時休業中のオンライン授業の「成果と課題」の確認と引継ぎを行った。 ・ ミライシード、Classroom、Meet、プログラミング、Jamboard等の研修会をICT支援員により行い、授業者の操作能力向上を適時図った。 ・ 「わかりやすい授業」のためのICT機器の効果的な取り入れ方について情報交換を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症に関わる出席停止児童などに、算数の授業を中心にライブ配信したり、長期欠席児童がchromeで朝の会に参加したりできるように取り組んだ学年もあったが、どの学年も、同じような使用方法ができるようになるまでには至っていない。 <p><指標></p> <p>【教職員アンケート】「端末を使った宿題を出している」100 %</p> <p>児童の一人一台端末の活用能力と情報活用能力の向上</p> <p>①【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「情報活用能力」の育成の授業に取り組んだ。また、期間を決めて、火曜日の「朝の学習時間」に全校でタイピングに取り組む、学年段階に応じてドキュメントなどで日記や社会見学の感想文などのまとめを書くことに端末を利用することができた。 <p><指標></p> <p>【児童アンケート】「クロームブックの授業は楽しい。」 1学期○97.4%、2学期○93.4%</p> <p>【保護者アンケート】「クロームブック使用の授業に楽しく取り組んでる」 1・2学期 ○97.3%</p>	<p>【学校関係者評価】</p> <p>○オンライン授業等は、まだまだ課題が多く大変だが、取り入れた事で今後の活用の仕方変わって来るだろうと思う。これからの操作向上を図って欲しい。</p> <p>○どうしても必要な時代になってきているので、早い内から取り組んで学ぶ機会が増えることは先々役に立つことが多いと思う。</p> <p>○実際に早くからchromebookを活用していることで、中学校へ上がってからの取組がスムーズだったという話が出ていた。</p> <p>○オンライン授業が受けられることは良いことだと思う。どの児童もみんなが受けられるようになることには期待している。</p> <p>○「クロームブックの授業は楽しい」が昨年の88%から向上しており90%を大きく超えているのはとてもよいことだと思います。</p> <p>出席停止中のオンライン授業は、どの学校も苦勞されたように伺っておりますが、意外なほど子どもがそれなりに対応できていたことに感じます。</p> <p>▲クロームブックの活用で、家に持ち帰った時に電子図書のような読書はどうか。その感想もタイピングで行う。毎月、教育委員会から各学年への推薦図書を決めてもらって、市内統一で試してはどうか。</p> <p>○児童も先生も分からないことが多いと思いますが、今後も積極的にクロームブックを取り入れた授業を行ってほしい。</p> <p>▲「クロームブックの授業は楽しい」と答えているので、児童が好きと感じているクロームブックを利用して苦手な教科の宿題に取り組ませるなどの工夫はできないか。どんどん利用していくことは良い反面、目などの健康面が心配である。使い方のきまりを守れるように指導をお願いしたい。</p> <p>【今後の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかりやすい授業」のためのICT機器の効果的な取り入れ方について情報交換を行っていく。 ・端末の毎日の持ち帰りの効果的な活用を検討していく。 ・日記や社会見学の感想文などを書くのに端末を利用し、学年による利用頻度の違いを小さくしていく。 ・朝の学習の時間のタイピング練習は継続しながら、児童の端末利用技能の習得のための方法を引き続き検討していく。 ・ICTの有効活用とわかりやすい授業のために、ICT支援員の来校日を積極的に活用し最新の情報の共有と日々の授業利用のための教職員の技能習得を進める。

令和4年度 学校自己評価書(様式)

鈴鹿市立庄内小学校		NO. 2	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価と今後の改善点
不登校	<p>不登校をうまない体制づくり</p> <p>① 情報共有と関係機関への連絡と早期対応 → 様子が気になる子について日頃から情報共有を行い(職員会議等月1以上)、必要な時にはSCや関係機関に連絡し早期対応を図る。 → SCによる観察・面談、コンサルテーションを有効活用する。(年9回) → 教育支援課不登校AD、子ども家庭支援課との連携 → 「すずかっ子支援ファイル」のある児童の支援会議を毎学期に行う。 困り感のある児童について、保護者の理解のもと支援会議を実施し、手立ての検討、関係機関との連携をすすめる。 → 個別的教育支援計画・指導計画を作成し、個に応じた支援を行う。 → 「ゆりのき学級」児童の理解教育の授業を行い、交流を深める。</p> <p><指標> 【保護者アンケート】 「お子さんのことで気軽に学校へ相談できますか」 89.1→90%達成 「学校は、お子さんの悩みや問題に適切に対応していますか」 87.0→90%達成</p> <p>② 一人ひとりの違いを認め合い互いを大切にし合える仲間づくり → 中学校区の児童の交流を図ると共に、職員の情報交換を行う。 鈴峰中学校区ネットワーク実践交流会への参加 → 縦割り班活動を取り入れ、異学年交流を図る。 → 人権強化月間を中心に、学校・保護者・地域が協力していじめ防止や多文化共生に取り組む。(学校便り、庄内地区代表者会などで発信)</p> <p><指標> 【児童アンケート】「学校で友だちとなかよくしている」 97.6→100%</p> <p>③ いじめ防止について → 「いじめ防止基本方針」の策定、確認と見直し → いじめや差別、仲間づくりに関わる授業に取り組む。 → 「いじめアンケート」の学期1回の実施と積極的認知 → 各クラスの仲間づくりの授業実践から、人権集会での発表を行う。</p> <p><指標> 【児童アンケート】 「学校へ行くのが楽しい」 78.3→85%達成 「先生は自分のことをほめたり認めたりしている」 85.4→90%達成</p>	<p>不登校をうまない体制づくり</p> <p>①【成果】 ・ 様子が気になる子について日頃から情報共有を行い、必要な時にSCや関係機関に連絡し早期対応を図った。校区スクールカウンセラーの観察や面談が積極的に取り入れるようにした。 ・ 教育支援課不登校ADや子ども家庭支援課との連携を引き続き行った。 ・ 「すずかっ子支援ファイル」を所有する児童を中心に、困り感のある児童について保護者の理解のもと支援会議を実施し、手立ての検討をすすめた。(個別的教育支援計画・指導計画を作成し、個に応じた支援を行うように心がけた)。 ・ 「ゆりのき学級」児童の理解教育の授業を行い、交流を深めた。</p> <p>【課題】 ・ 支援会議やSC面談が必要と思われるが、SCにつなげにくい状況があった。(「適切に対応していない」 1.3%)</p> <p><指標> 【保護者アンケート】「お子さんのことで気軽に学校へ相談できますか」 R3 89.1%→○92% 「学校は、お子さんの悩みや問題に適切に対応していますか」 R3 87.0%→○93.4%</p> <p>②【成果】 ・ 人権フォーラム(6年)や単級学級交流会(5年)、特別支援学級交流会などを通して、中学校区の児童の交流を図った。校区校長会や各担当者会、夏の学習会で職員の情報交換を行った。 ・ 毎週金曜日の業間に「ふれあいタイム」で縦割り班活動を行い、異学年交流に取り組んだ。 ・ 人権強化月間を中心に、学校・保護者・地域が協力して「いじめ防止」に取り組み、人権教育の研究授業や人権集会に取り組んだ。</p> <p>【課題】 ・ 人権教育の授業後の感想から、いじめ事案が分かってきて対応を続けた。今後も日記や日頃の聞き取りなどから、児童の状況を把握し、職員で情報共有していく。</p> <p><指標> 【児童アンケート】「学校で友だちとなかよくしている」 2学期▲93.4%</p> <p>③いじめ防止について ・ 「いじめ防止基本方針」の確認と見直しを行った。 ・ いじめや差別、仲間づくりに関わる授業を全学年が行い、人権集会に取り組んだ。 ・ 「いじめアンケート」を学期に1回実施して、積極的認知を行って事後指導に取り組んだ。 ・ ピンクシャツ運動に4月・11月に取り組み、児童や地域、保護者に啓蒙した。</p> <p><指標> 【児童アンケート】 「学校へ行くのが楽しい」 R3 78.3%→ 1学期80.8% 2学期△84.2% 「先生は自分のことをほめたり認めたりしている」 R3 85.4%→1学期93.6% 2学期○96.1%</p>	<p>【学校関係者評価】 ○「ゆりのき学級」のこと、支援が必要な児童に対する理解・どこまで個人情報でどこまで必要なかが難しい。それによって問題になることもあるようだが、丁寧に対処してもらっている。 ▲「学校へ行くのが楽しい」と思えることは、本来の学校の一番の目的だと思うので、今後も「魅力ある学校づくり」ができればと思う。 ○問題のある児童がいなくて安心しました。引き続き、先生方には不登校をうまない体制づくりを続けていって頂きたいです。 ○保護者アンケートの「相談できますか」と「適切に対応していますか」の数値がいずれも90%を大幅に超えているのは素晴らしいことだと思います。 ▲「適切に対応していない」「学校で友だちと仲良くしている」「学校に行くのが楽しい」に当てはまらなかった方たちへのケアは大切だと思います。 ○中学校区での他校との交流は、コミュニケーション能力を身に着けるためにもいいと思う。 ○アンケート結果に表れているように、困っている児童へのフォローや問題のある児童への指導がしっかりなされていると感じる。</p> <p>【今後の改善点】 ・「不登校をうまない体制づくり」を、今後も全職員で意識して取り組む。 ・「適切に対応している」「学校で友だちと仲良くしている」「学校に行くのが楽しい」に当てはまらなかった児童・保護者へのケアを意識的に取り組む。 ・いじめや不登校などの問題に対しては、解決にむけて組織的に取り組んでいく。 ・特別な支援を必要とする児童や、その保護者に対して、特別支援教育コーディネーターを中心とした組織をつくり、個に応じた適切な支援が行えるようにする。</p>
	地域連携	<p>子どもたちが安心・安全に過ごせるための環境整備を地域と共に進める</p> <p>① 通学路の安全確保、校庭の環境整備に取り組む</p> <p><指標> 【保護者アンケート】 「学校は児童の安全確保に取り組んでいる」 95.6→98%達成</p> <p>地域行事への参加と学校からの発信</p> <p>① 学校運営協議会(年6回実施)にて、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、学校の現状や取組を伝え、地域との双方向の交流を推進する。</p> <p>② 学校だより等(昨年59号)で学校の状況を地域・保護者に積極的に伝えていく。庄内地区代表者会・年12回、民生児童委員会、地域回覧</p> <p><指標> 【保護者アンケート】 「学校は、懇談会や通信などで教育方針や教育活動・児童の様子を分かりやすく伝えていきますか。」 97.8 → 98%達成</p> <p>③ 地区市民センターを中心に地域と連携して新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、地域との交流事業(桜祭り、庄内祭、いきいき長寿の会など)に取り組む。</p> <p>④ ボランティアを募集し、学校教育活動の理解・支援を推進する。</p> <p>⑤ 保護者アンケート・児童アンケートを実施する。(年1回以上)</p>	<p>子どもたちが安心・安全に過ごせるための環境整備を地域と共に進める</p> <p>①【成果】 ・ 通学路の安全確保のため新しく安全安心ボランティアに1名加わって頂き、毎日見守って頂いた。また、民生委員の「あいさつ運動」を正門前から危険箇所に変更して頂き見守って頂いていた。PTAでは、標識の移設、飛び出し防止注意の設置等に取り組んで頂いた。 ・ 校庭の環境整備として、芝山の除草、玄関前の整備、「ゆりのき」の手当、伐採した桜の代わりの記念植樹、花壇の再生、体育館前の桜の根もとの整備などに、地域の方に取り組んで頂いた。</p> <p><指標> 【保護者アンケート】 「学校は児童の安全確保に取り組んでいる」 R3 95.6%→△2学期97.3%</p> <p>地域行事への参加と学校からの発信</p> <p>①【成果】 ・ 学校運営協議会やPTAの委員会にて意見を頂き、新型コロナウイルス感染症対策として、運動会の参観人数のアンケートを実施したことで、混乱や感染もなく実施することができた。</p> <p>②【成果】 ・ 学校だより等(昨年59号)で、学校の状況を地域・保護者に積極的に伝えるよう地域回覧させて頂いた。学校だより等を見た地域の方に環境整備など幅広い活動でご協力頂くことができた。また、庄内地区代表者会や民生児童委員会においても、学校の様子をお伝えすることで、様々なご意見を頂くことができた。</p> <p><指標> 【保護者アンケート】 「学校は、懇談会や通信などで教育方針や教育活動・児童の様子を分かりやすく伝えていきますか。」 R3 97.8% → 2学期○93.3%</p> <p>③【成果】 ・ 地区市民センターを中心に地域と連携した新型コロナウイルス感染症対策を取ったことで、校内での感染拡大は見られなかった。また、地域とのできる範囲での交流事業(桜祭り、庄内祭、いきいき長寿の会など)に取り組むことができた。</p> <p>④【成果】 ・ 感染状況を見ながらボランティアを募集を行い、学校教育活動の支援をして頂いた。</p> <p>⑤【成果】 年2回実施した。</p>
学校経営	<p>働き方改革の推進</p> <p>① 第2、4水曜日を定時退校日として教職員の勤務時間削減を目指す。 成果指標 ・一人当たり月平均時間外労働時間 25時間以下 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 12名以下 ・月80時間を超える時間外労働者の延べ人数 0名以下 活動指標 ・定時退校日に退校できた職員の割合 70%以上 ・60分以内に終了した放課後開催の会議の割合 60%以上</p>	<p>働き方改革の推進</p> <p>① 第2、4水曜日を定時退校日として教職員の勤務時間削減を目指す。(9月末現在) 成果指標 ・一人当たり月平均時間外労働時間25時間以下 → ○19.8時間(4/13オーバー) ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 12名以下 → ○1名 ・月80時間を超える時間外労働者の延べ人数 0名以下 → ○0名 活動指標 ・定時退校日に退校できた職員の割合 70%以上 → ▲55% ・60分以内に終了した放課後開催の会議の割合60%以上 → ▲44%</p> <p>【成果】 ・chromebookの持ち帰りやスクールサポートスタッフによる印刷業務などの実施により、学校での平均時間外労働時間は25時間以下で、平日の時間外労働時間は減少傾向である。</p> <p>【課題】 ・会議の内容を協議と連絡に分けて、かかる時間を短縮していく必要がある。</p>	<p>【学校関係者評価】 ○小規模校なので、職員の数も少なく大変だと思いますが、これからも頑張ってください。 ▲残業時間の減少は、とても良いことですが、持ち帰り仕事などの負担になっているのが気になります。また、いつかは屋休態が正しくとれる仕組みができると良いと思います。 ▲学校としてもワークライフバランスの取組をお願いします。会議については、最初から時間を設定して開催してみてもどうか。 ○職員の負担軽減になるように引き続き取組をお願いしたい。</p> <p>【今後の改善点】 ・業務の平準化を図り、特定の職員に集中しないようにする。 ・働き方改革の方針に沿った取組と、子どもの安全・安心に関わる環境の整備の両立は時間的に難しいところがあるが、効率的に取り組めるように検討していきたい。</p>

